

立川基地跡地昭島地区

公園等整備計画ワークショップニュース

平成24年3月14日 Vol. 2

第2回目のワークショップは、3月4日（日）に、『現地及び参考事例の視察と検討グループの決定』と題し、市のバスを利用して、開発予定区域を見た後に、実際に整備された公園や緑道の事例、壁面後退の参考例などを視察しました。

当日は、くもり空でやや肌寒い日でしたが、24名の参加者は、各視察地を、目で見、足で感じながら、参考になる点や、うちの整備区域だったらなどの、メモを取りました。

立川基地跡地昭島地区

跡地内に置かれたカラーコーンにより、拡幅される歩道（4m）、利用計画に定められた緑道（8m）、法務省敷地内の開放緑地（10m又は5m）の幅を、富士見通りの西側からフェンス越しに確認しました。また、公園の整備範囲については、車窓からでしたが、大よその範囲を確認しました。



立川市役所周辺

ここでは、法務省敷地内の児童公園（約4,000㎡）の大きさを感じるために、立川市役所北側の調節池上部の広場（約5,000㎡）を車窓から見ました。

また、立川市役所南側の区域では、地区計画により定められた壁面後退や歩道状空地などを確認しました。

エコ・パーク

エコ・パークは、約22,000㎡あり、今回の検討対象となっている公園面積と同程度になりますので、その大きさを体感しました。

また、原っぱゾーンやスポーツゾーンなどの構成、駐車場やトイレ、遊具やベンチなどの配置、あるいはウッドチップを敷き詰めた散策路なども確認しました。



（2面へ続く）

**次回は … 平成24年3月25日（日）午後2時から
富士見会館・第1集会室** で行います。

公園と緑道のグループに分かれ、視察結果も参考にしながら、それぞれ望まれる姿（機能）について整理し、最後に発表をします。



三鷹台団地（三鷹市）

団地の東側道路沿いには、歩道状空地と緑地が一体となり、道路端から建物までの間は、代表的なところで約1.3m。また、建物も道路沿いの6階建てから階段状に9階建てになるなど、法務省宿舎と似たつくりなっています。

緑地部分には、散歩道が作られ、高木から低木、常緑樹、落葉樹と様々な植栽や、雨水を利用したせせらぎなどを視察しました。

押立緑道（府中市）

低木と中木が組み合わせられ、散策路は適度に蛇行し、つる性植物のアーケードなどがある緑道を視察しました。



二ヶ村緑道（府中市）

隣接するマンションとの間には目隠しとなる生垣が施され、視察当日は流れていませんでしたが、井戸水を利用した水路があり、東屋も設置されている緑道を視察しました。

四季感を感じたかった。ろう梅とかがあってもよかった。

水路は小さすぎて参考にならない。もっと、大きくとりたい。

三鷹台団地は、変化もあり参考になった。

立川市役所周辺が参考になった。

緑道は真っ直ぐでなくてもよいと思った。

植物の種類が多くて良いと思った。

立川の官庁街の樹木は参考になった。

18mの緑道幅を体感できた。

道路幅や壁面後退の事例が参考になった。

二ヶ村緑道の水路は清潔でよいと思った。

歩道と自転車道を分離しているのは良いと思った。

エコ・パークは、ウッドチップ、遊具、トイレなどの整備内容が参考になった。

イメージが湧かなかった。

宿舎の後ろに見える刑務所をイメージできるパースがほしい。

いろいろなやり方があると思った。見学に来てもらえるようなものを作りたい。

参加者の感想です。

などなど…